



目の雑学

「赤ちゃんは泣いても、あまり涙が出ないのはなぜ？」



「赤ちゃんは、泣くのが仕事」。そう言われるぐらい、生まれたての赤ちゃんはよく泣きますね。意思表示の方法がそれしかないのですから、仕方ありません。それにしても、泣いてる赤ちゃんからは、あまり涙が出ていません。ウソ泣き？いいえ、そんなことはありません。

生まれた直後の赤ちゃんでも、目を守るための涙は出ています。ただ涙を作る機能が未熟で、涙として外に流れ出るほどではないのです。泣いても涙が出ないからといって、心配する必要はありません。

もう一つ特徴的なこととしてあげられるのに「赤ちゃんはまばたきが少ない」という現象もあります。これは、赤ちゃんはまだ視力が弱く、目の焦点をあわせるのに時間がかかるためです。人は、ピントがぼやけた時、まばたきをして調整しますが、赤ちゃんはそれがすばやくできないため、まばたきせず、目を開いたままにしているようです。

ちなみに、乳児にはまばたきはなく、幼児で1分間に3~13回、小児で8~18回と、段階的に増え、大人は15~20回ぐらいの回数になります。

また、TVゲームや読書などで集中していて、まばたきの回数が減ると、目の表面が乾き(ドライアイ)、角膜が傷つきやすくなります。また、コンタクトレンズを使用している場合、まばたきをしても、うまく涙の膜が張れず、ドライアイになることもあります。しっかり目を閉じることを心がけましょう。適度に休憩をとり、まばたきをしたり、時には人工涙液や目薬などを使って、目の保護に努めましょう。

「なるほど！目の雑学」千寿製薬株式会社より

春よ来い！

春のような暖かい日があったり、寒波が訪れたり寒暖の差が厳しい日もありますが、暖かい日の光に春を感じることができるようになってきました。

早いもので今年度もあと1ヶ月をきりました。

今年度の教育相談、サマースクールやウィンタースクールなどの行事はいかがでしたか？

これからも支援部では、子どもたちの一つ一つの変化や成長をご家族や担任の先生方とともに見つめ、喜び合いながら、成長を支援していきたいと思ひます。

来年度も、ご家族や担当する先生が不安や疑問に思うことや課題について、個々のニーズに応じた支援と一緒に考え、同じ方向を向いて進んでいけたらと考えています。

また、1年間の活動についてご意見、ご感想をお聞かせ下さい。

相談室から

いつも、教育相談にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、来年度の教育相談ですが、4月の相談につきましては、4月1日以降に電話でご連絡ください。

なお、4月は入学の子どもさんの校内サポートを行う関係で、ご希望の相談日時や回数が取れないこともあります。ご理解ください。

5月以降につきましては、校外の教育相談を中心にしてい予定で。

どうぞよろしくお願いいたします。



視覚障害児・者の気持ち

弱視者の見え方の多様性は、原因、病気の時期、病態などが様々で、どのように見え、どんな不便があるのかは、当事者でなければ判りません。

それを少しでも理解するためにこのカルタは作られました。

 <p>「あーう!! 元気がいい?」</p> <p>「け!?!」</p> <p>元気がよく声をかけたら人違い</p>	<p>ふとした思い込みからしばしば起こりがちなハプニング。弱視者は、漠然と背格好や髪型などから誰なのかを判断することになるので、人違いの頻度も比較にならないので、元気がよく声をかけたら人違い</p>	 <p>「おれ、ゴールした!」</p> <p>「ほ!?!」</p> <p>「ほんとうは誰が誰なのかわかんなかった」</p> <p>本当は見えてないけどまあいいか</p>	<p>「あっちの〇〇が、こちらをこ覧ください」と示された場合、その度に「見えない」と言ってもきりがない。そのため、見えてもきりがない。そのために、見えてもきりがない。そのために、見えてもきりがない。そのために、見えてもきりがない。</p>
---	---	---	---

「弱視者いろはカルタ」より